

東日本大震災聴覚障害者救援中央本部

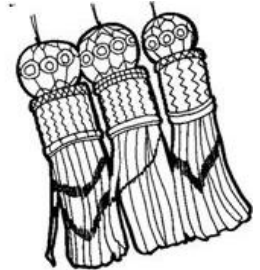
救援ニュース 第7号 (2011. 8. 9 発行)

【発行責任者】東日本大震災聴覚障害者救援中央本部 事務副総括 中村慎策
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 130 SKビル 8階 財団法人全日本聾啞連盟内

TEL:03-3268-8847 FAX:03-3267-3445 <http://www.jfd.or.jp/tohoku-eq2011/>

石野富志三郎中央本部長よりメッセージ (第二弾) ～皆と共に力を合わせて復興へ～

東日本大震災から5カ月が経とうとしています。
被災地における支援者の皆さんの疲労感も色濃くなってきました。
石野本部長より、明るい未来への復興を目指しての力強いメッセージを
いただきました。(以下は震災 HP 動画メッセージ字幕から一部抜粋)



救援中央本部は今までに3つの支援を行ってきています。

一つは人的支援、二つ目は物資支援、三つ目はメンタル支援です。これまでは、特に宮城県から依頼があり、宮城県を中心に救援を実施、厚労省と相談しながら全国各地から手話通訳者、相談員を派遣してきました。派遣した現地の被災者からは大変喜ばれたと報告を受けております。現在、被災3県では自分の家などを後回しにして支援を続けている支援者の間に少しずつ疲れが出始めているようで、支援者の健康問題を考えないとなりません。その対策として、医療ネットワーク等の団体と相談し、支援に行かなければいけないのではないかと考えているところです。

先日、サッカー女子ワールドカップでなでしこジャパンチームが見事に金メダルを勝ち取り、明るい話題を呼びました。試合では、決してあきらめず、一人の力ではなくチームワークの力でメダルを勝ち取ったと聞き、わたしたちもその通り、決してあきらめずにと支援を続けていかなければと思います。

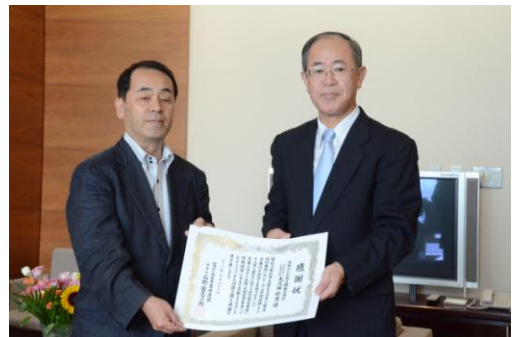
全員野球という言葉があります。わたしたちも、被災者も、支援者も、国も、チーム一体となって力を合わせて取り組み、復興を目指していきたいと思いますので、今後もよろしくお願いします。

日本テレビ放送に感謝状を贈呈しました！

7月22日(金)午後、石野理事長、久松事務局長が日本テレビ放送網株式会社を訪問し、大久保社長に対し、全日本ろうあ連盟からの感謝状の贈呈を行いました。

これは、東日本大震災が発生した後すぐ放送された特別番組に字幕を付与し、以降25時間連続して字幕を付与して放送を続け、その後の災害特別番組にも比較的多くの番組に字幕を付与して放送し、聴覚障害者への情報提供に大いに貢献したことに対し、全日本ろうあ連盟として感謝の意を表すために感謝状を贈呈することになったものです。石野理事長から感謝状と、記念品として、「新日本語-手話辞典」と映画「ゆずり葉」DVDが大久保社長に手渡されました。

今回のこのような日本テレビの取組みが他の民放にも広がることを期待されます。





7月1日（金）～5日（火）、岩手、宮城を訪問しました

東日本大震災聴覚障害者救援中央本部（以下、「中央本部」と略）から久松事務総括、浅井手話通訳担当、岡安連盟職員が、今後の長期的な支援計画についての調査、協議を行うために、岩手県、宮城県を訪問しました。（以下はHPより報告書の一部を抜粋。）

<p>7月1日 （金）</p>	<p>13:00 東日本大震災聴覚障害者支援岩手本部（以下、「岩手本部」と略）の高橋本部長とともに、岩手県障がい保健福祉課を訪ね、被災聴覚障害者の実態把握調査への協力を求める。県としては、個人情報保護法により、聴覚障害者の情報を提供することはできないが、できる範囲での協力はしたいとのことであった。</p> <p>16:00 岩手本部事務所（岩手県立視聴覚障害者情報センター（以下、「情報センター」と略）内）で今後の対応について協議。「岩手県沿岸部被災者調査（案）」について検討し、岩手の現状に合った調査を行うこととし、具体的手法については、別途検討することを確認。</p>
<p>7月2日 （土）</p>	<p>10:30 宮古市役所で岩手県ろうあ協会宮古支部の方々、宮古市障害者福祉相談員と待ち合わせて、被害の大きかった田老地区へ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガレキは片づけられていて、いまは解体を待つ建物が点在している状況。 ・相談員の話によると、宮古市の人口は6万人弱。聴覚障害の手帳保持者70名。 ・岩手県ろうあ協会宮古支部の会員7名の内1名が死亡したとのこと。 ・亡くなった方（男性）は、地震は分かっても津波が来るのが分からずに逃げ遅れたのではないとのこと。 <p>今は、家も解体されて跡形もなくなっていた。</p> <p>13:00 宮古市役所で昼食後、盛岡に戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮古市役所も1階部分は水に流され、商店も浸水したとのことだが、今は綺麗に片付けられて、多くの商店が営業を再開している。 <p style="text-align: right;">（写真：宮古で亡くなったろう者の家の跡）</p>
<p>7月3日 （日）</p>	<p>10:00～12:00 第3回岩手本部会議にオブザーバーとして出席</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各構成団体からの報告などが行われ、中央本部からは沿岸部の聴覚障害者の実態調査を県の協力を得て行うことを説明し、了承された。 <p style="text-align: right;">（写真：岩手本部会議）</p> <p>12:30～14:00 聴覚障害者の実態調査について県障がい福祉課と岩手本部、情報センター、中央本部で具体的協議。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下のような方法で行うことを確認。 <p>7月末まで 岩手本部が調査用紙を作成し、岩手県障がい福祉課へ提出</p> <p>8月上旬 この調査用紙を、岩手県障がい福祉課から沿岸部の聴覚障害手帳保持者へ郵送</p> <p>8月中旬 調査用紙の返信は岩手本部宛てとする</p> <p>8月末まで 岩手本部で集計</p>



<p>7月4日 (月)</p>	<p>11:00 頃 大船渡市役所保健福祉課へ挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての障害者の実態を把握できていないので、ぜひ協力をととのこと。 <p>11:30 大船渡市保健福祉課障害福祉係職員の案内で、被災者宅を訪問。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の話では、大船渡で仮設住宅に入っているろう者は2名。他に難聴者も何人か仮設住宅に入っているとのこと。 <p>18:00 東日本大震災聴覚障害者救援宮城本部（以下、「宮城本部」と略）と打合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話通訳の公的派遣について <ul style="list-style-type: none"> →6月末で終了しているが、現地の役所も設置通訳の必要性を感じている。今後、当面は派遣制度で代用して、設置に向けて取り組みたいとのこと。 ・メンタル支援について <ul style="list-style-type: none"> →相談員のコーディネーターを長期派遣し、現地状況に合わせて相談支援を行い、宮城のろうあ者相談員の活動（増員）にもつなげていくことを説明し了承を得る。 ・手話通訳者の健康相談について <ul style="list-style-type: none"> →全国手話通訳問題研究会の健康対策部のメンバーを中心に支援者の健康相談を行うことを計画。地元の医師とも連携を取りながら進めることでした承を得る。
<p>7月5日 (火)</p>	<p>10:00 JDF 宮城支援センターを訪問</p> <p>14:00 宮城県障害福祉課を訪問し、5月に宮城県ろうあ協会から県に提出した要望書などについて協議。</p> <p>宮城県：峯浦課長・小谷野班長・坂氏・高橋明美（通訳）</p> <p>中央本部：久松・小海・岡安（通訳）・浅井</p> <p>宮城本部：小泉・浅野・佐藤</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="322 1205 837 1523">  </div> <div data-bbox="901 1205 1422 1523">  </div> </div> <p>(写真：JDF 宮城支援センター)</p> <p>(写真：宮城県庁にて)</p> <p>1. 5月に提出した要望書について</p> <p>①情報提供施設の設置について</p> <p>情報提供施設の機能や必要性を理解してもらうための資料を準備し、県と協議を継続していく。</p> <p>②手話通訳者の設置について</p> <p>今は生活再建に向けての利用が増えている。公的派遣は6月末で終了しているが、名取市と亶理町は7月以降週1日、派遣事業を使って通訳者を置くことになっている。しかし、1日だけでは、聴障者はその日に合わせて都合を調整しなければならず、不便であり、通訳者の常時設置が今後の課題。</p>

2. 沿岸部被災者調査について

岩手県が地域支え合い事業を利用して8月から始める予定の調査と同じ手法での身体障害者手帳所持者への一斉アンケートの協力を求め、概ね了解の様子。

3. メンタルケア専門家の派遣について

2回にわたる医療・メンタルチームによる調査により、心のケアの必要性が広範囲で見つかったため、専門家を1年間宮城に派遣し、県としても協力体制が取れるよう依頼。

<問題点等>

- ・聴覚障害当事者がきちんと説明・要望できるようにし、当事者が訴えることで、その重要性を理解してもらうことが重要である。
- ・行政担当者が変わっても、きちんと引き継がれるよう、記録を作ることが必要である。
- ・情報提供施設建設について運動を進めるために、勉強会を開くことが必要である。
- ・仮設住宅には、電話回線の引き込みがないためにFAXが使えないところや、電話はあるが、FAXがないところなど、聴覚障害者のことが考慮されていないところもあるので、仮設住宅のバリアフリー化について、他障害者団体と共に国レベルでの働き掛けが必要と思われる。



第16回世界ろう者会議で義援金が集まりました！

7月18日～24日、南アフリカ・ダーバン市において開かれたWFD会議は125カ国、約2100名が集い、日本からも8人の代表団が参加しました。期間中に行なわれた発表会で日本の震災状況を報告し、復興への協力をお願いしたところ、各国の参加者から義援金が寄せられ、その額は約4万円にもなりました。

☆☆☆ 義援金のお願い ☆☆☆

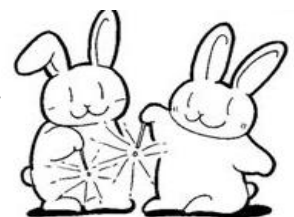
被災地の聴覚障害者ら仲間の支援のために皆様のご協力をお願いします。

- ① 銀行：みずほ銀行 江戸川橋支店 普通預金 口座番号：1511276
 名義：(財)全日本聾唖連盟 災害救援基金 代表 石野富志三郎
 (サイタンホウジンペンコウアルメイ サカイクエンキョウイヨウ イソフジサマウ)
 ※みずほ銀行内(本・支店間)での振込の場合、振込手数料は免除されます。

- ② 郵便振替：記号 00160-9-166840 名義：(財)全日本聾唖連盟

※通信欄に「東日本大震災の災害義援金」とご記入ください。

義援金総額 45,973,532円 (874件 2011年8月3日現在)



イラスト協力：芦原利江